

直轄工事における総合評価方式の実施状況 (平成22年度 年次報告)

国土技術政策総合研究所

作成の目的について

- 本年次報告は、国土交通省における総合評価方式の現況を取りまとめ、公表することにより、同方式の普及・拡大、ダンピング防止策、入札契約制度に関する諸課題への確実な対応に資することを目的として作成するものである。

【構成】

1. 平成22年度 年次報告のポイント
2. 総合評価方式の実施状況
 - 2-1. 普及・拡大の状況
 - 2-2. 高度技術提案型の実施状況
 - 2-3. 技術評価の実施状況
 - 2-4. 標準型における評価項目
 - 2-5. 簡易型における評価項目
 - 2-6. 落札者の状況
 - 2-7. 施工体制確認型の実施状況

1. 平成22年度 年次報告 のポイント

P.1

1. 平成22年度 年次報告のポイント

(1) 普及・拡大の状況

- 平成22年度における総合評価方式の適用率は件数ベースで99.2%、金額ベースで99.9%となり、ほぼ100%の適用状況となっている。【P6、P7】
- タイプ別では、件数ベースで最も多いのは簡易型の5954件(全体に占める割合66.8%)であるが、金額ベースでは標準型の6017億円(全体に占める割合55.9%)である【P6、P7】

(2) 高度技術提案型の実施状況

- 平成22年度における高度技術提案型の実施件数は9件(同0.10%)、実施金額は326億円(同3.0%)であり、平成21年度と比較して3件、235億円増加した。また、平成17~22年度において、一般土木、鋼橋上部、プレストレストコンクリートの各工種において実施するケースが多く、件数ベースで62件(全体に占める割合88.6%)、金額ベースで2007億円(同92.6%)である。【P8】

P.2

1. 平成22年度 年次報告のポイント

(3) 技術評価の実施状況

- 加算点の平均は、標準型(Ⅰ型)58.1点、標準型(Ⅱ型)46.8点、簡易型33.3点、実績重視型27.4点となっている。【P9】
- 「技術提案」の配点率は、標準型(Ⅰ型)は60%~70%程度、標準型(Ⅱ型)は40%~50%程度となっている。簡易型では、「簡易な施工計画」の配点率が10%~30%程度の配点率となっている。【P10~P11】
- コンクリート構造物工事と土工事の技術提案課題の配点率は、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)いずれも、多くの地方整備局で「性能・機能」の配点率が高くなっている。一方、「特別な安全対策・施工計画」の配点率が高い地方整備局もある。【P12~P13】

(4) 標準型における評価項目

- 各評価項目の採用率は、標準型(Ⅰ型)では「技術提案」に次いで「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」が高く、標準型(Ⅱ型)では「技術提案」と「企業の施工能力」に次いで「配置予定技術者の能力」と「地域貢献の実績」の採用率が高い。また、落札者と非落札者で得点率に差がついているのは、標準型(Ⅰ型)は「技術提案」、標準型(Ⅱ型)は「ヒアリング」である。【P14、P15】
- 技術提案に係る具体的な課題の設定状況について、平成22年度において、採用率が高いのは標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)ともに「コンクリートの耐久性向上」である。また、落札者と非落札者の得点率に差がついているのは、平成22年度において、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)ともに「施工計画(施工計画全般)」である。【P16、P17】

P.3

1. 平成22年度 年次報告のポイント

(5) 簡易型における評価項目

- 各評価項目の採用率は、簡易型(実績重視型と除く)、実績重視型ともに「企業の施工能力」、「配置予定技術者の能力」、「地域貢献の実績」が高く、ほぼ100%となっており、次いで「地理的条件」も高い。また、落札者の得点率の平均値が高いのは、簡易型(実績重視型を除く)、実績重視型ともに「地理的条件」である。【P18、P19】

(6) 落札者の状況

- 最高得点者(最低価格者以外)が落札した割合は、WTO(標準型)61.1%、標準型(Ⅰ型)46.4%、標準型(Ⅱ型)30.1%、簡易型(実績重視型を除く)25.9%(実績重視型27.7%)となっており、技術評価を重視する度合いが大きいほど高い割合となっている。【P20~P21】
- 加算点合計に占める技術評価点の割合は、WTO(標準型)、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)、簡易型で90%以上となる件数が過半数を超えている。【P22~P23】

(7) 施工体制確認型の実施状況

- 施工体制確認型を導入した場合の平均工事成績評定点は75.8点で、導入しない場合と比較して1.6点高い。【P24】

P.4

2. 総合評価方式の実施状況

2-1. 普及・拡大の状況

- ・平成22年度において、総合評価方式の適用率は件数ベースで99.2%となり、ほぼ100%の適用状況となっている。
- ・平成22年度において、タイプ別で最も多いのは簡易型の5,954件(全体に占める割合66.8%)で、最も少ないのは高度技術提案型の9件(同0.10%)である。

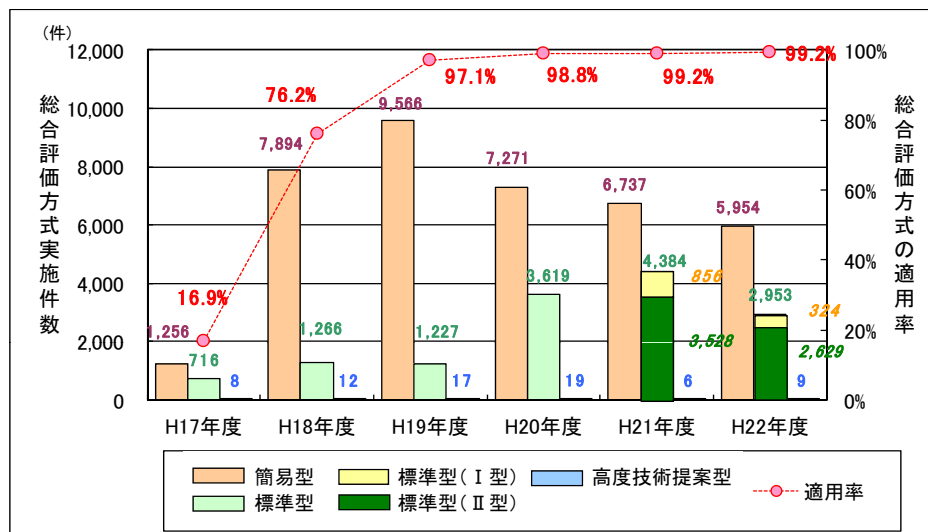


図1 年度別・タイプ別の実施状況(件数)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を含む)
 注2) 適用率は随意契約を除く全発注工事件数に対する総合評価方式実施件数の割合。

2-1. 普及・拡大の状況

- ・平成22年度において、総合評価方式の適用率は金額ベースで99.9%となり、ほぼ100%の適用状況となっている。
- ・平成22年度において、タイプ別で最も多いのは標準型の6017億円(全体に占める割合55.9%)で、最も少ないのは高度技術提案型の326億円(同3.0%)である。

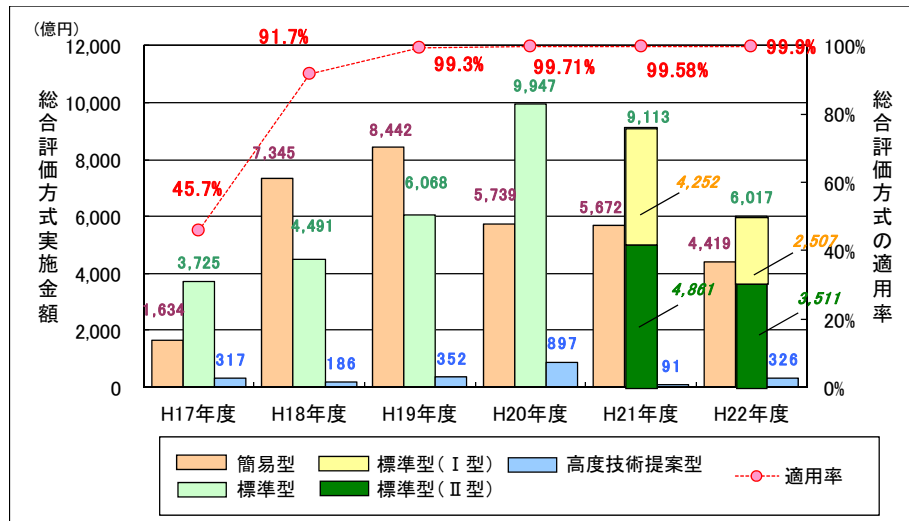


図2 年度別・タイプ別の実施状況(金額)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を含む)
 注2) 適用率は随意契約を除く全発注工事金額に対する総合評価方式実施金額の割合。

P.7

2-2. 高度技術提案型の実施状況

- ・平成17～22年度において、高度技術提案型は一般土木、鋼橋上部、プレストレストコンクリートの工種で実施する場合が多く、件数ベースで62件(全体に占める割合88.6%)、金額ベースで2007億円(同92.6%)である。

〔高度技術提案型〕

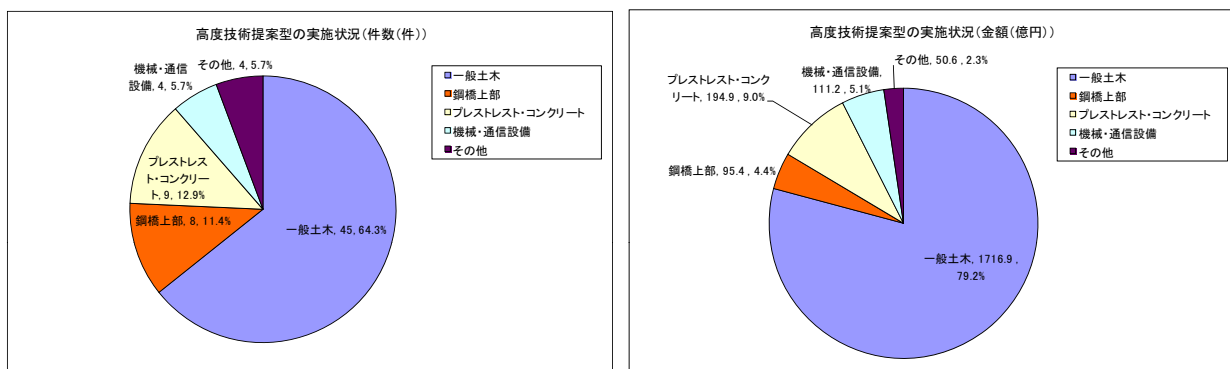


図3 高度技術提案型 件数と金額(平成17年度～平成22年度)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)

P.8

2-3. 技術評価の実施状況

- 平成22年度において、加算点の配点の平均は、標準型(Ⅰ型)58.1点、標準型(Ⅱ型)46.8点、簡易型33.3点、実績重視型27.4点となっており、技術評価を重視する度合いが大きいほど高い配点となっている。
- 平成22年度において、標準型(Ⅰ型)は加算点を60点以上とした件数が77.6%を占め、標準型(Ⅱ型)は50点以上が74.0%、簡易型(実績重視型を除く)と実績重視型は30点以上がそれぞれ85.7%、73.1%を占める。

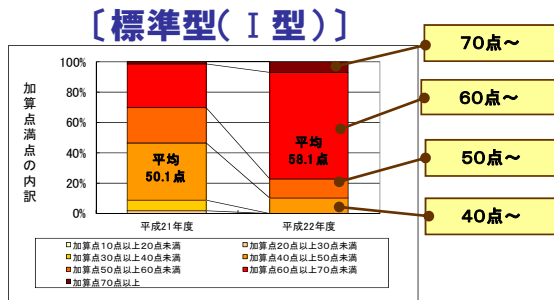


図4 年度別:加算点満点の内訳

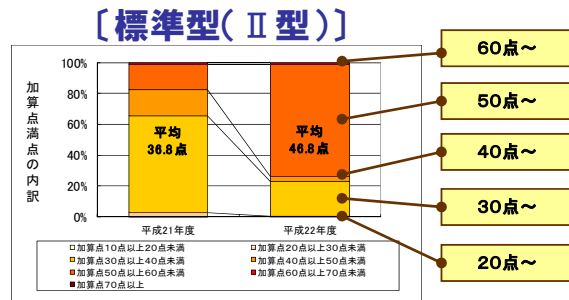


図5 年度別:加算点満点の内訳

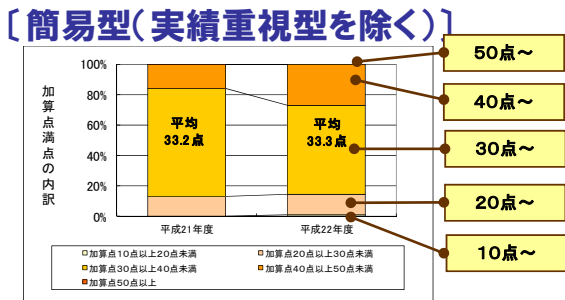


図6 年度別:加算点満点の内訳

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
注2) 主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

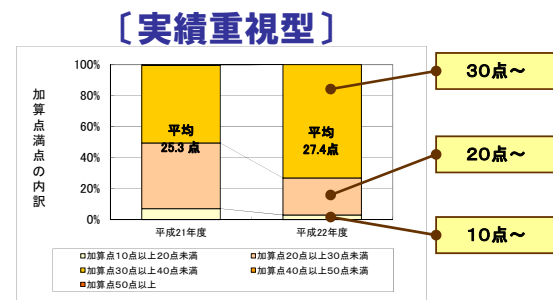


図7 年度別:加算点満点の内訳

注3) 実績重視型は、「簡易な施工計画」に配点がされていない工事を含む。

P.9

2-3. 技術評価の実施状況

- 標準型(Ⅰ型)では、ほとんどの地方整備局で、「技術提案」の配点率を60~70%としている。標準型(Ⅱ型)では、「技術提案」の配点率が40%~50%程度となっている。
- 「技術提案以外」の配点率は、「企業の施工能力」を高く設定している地方整備局もあれば、「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」の配点率を同程度に設定している地方整備局もある。

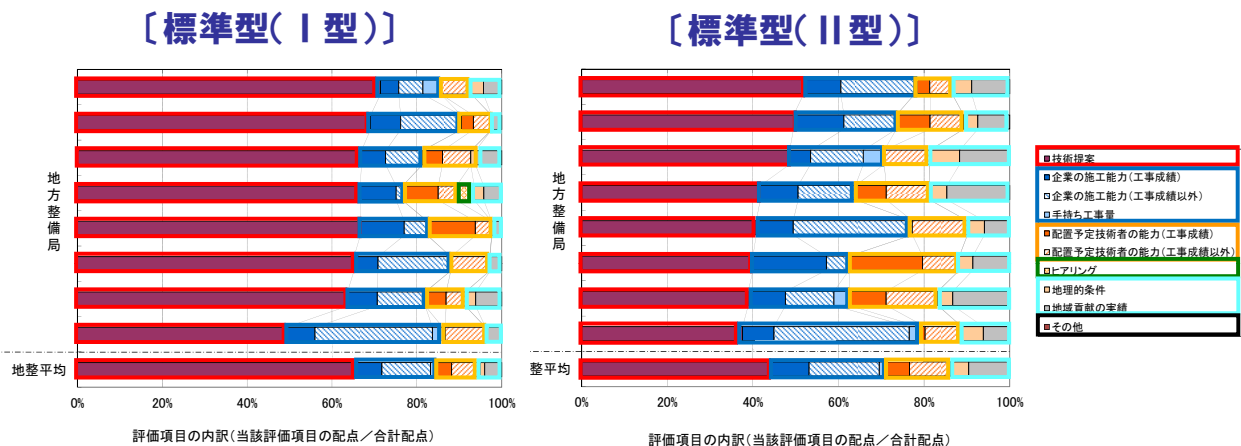


図8 地方整備局別 各評価項目の配点率(標準型) (平成22年度)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
注2) 各評価項目の詳細配点が確認でき、かつ主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
注3) 配点率は、合計に対する当該評価項目の配点の割合。
注4) WTO対象工事を除く。

P.10

2-3. 技術評価の実施状況

- ・簡易型(実績重視型を除く)では、全ての地方整備局で「簡易な施工計画」を設定しており、10%~30%程度の配点率となっている。
- ・「簡易な施工計画以外」の配点率は、「企業の施工能力」を高く設定している地方整備局もあれば、「企業の施工能力」と「配置予定技術者の能力」の配点率を同程度に設定している地方整備局もある。

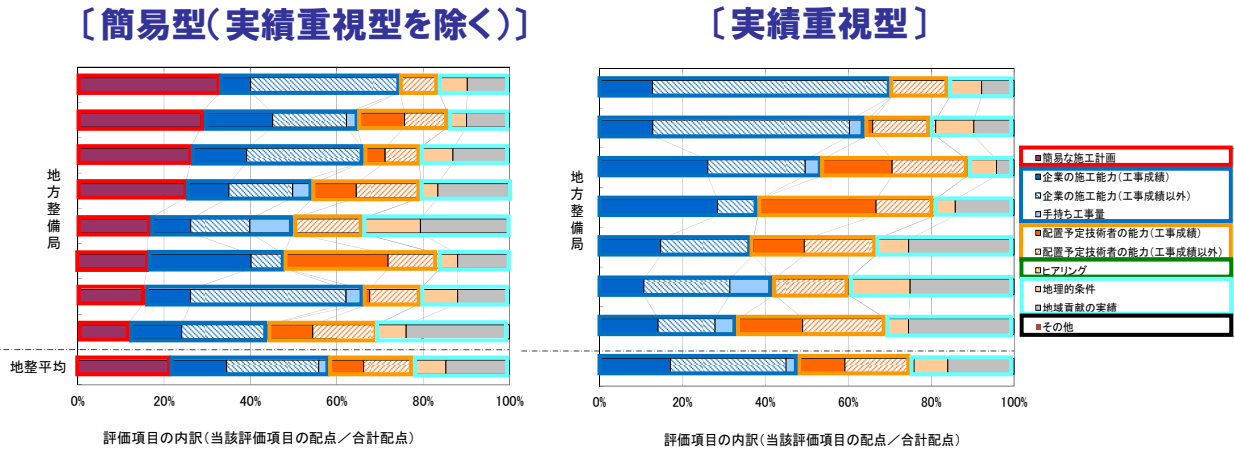


図9 地方整備局別 各評価項目の配点率(簡易型) (平成22年度)

- 注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 各評価項目の詳細配点が確認でき、かつ主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
 注3) 配点率は、合計に対する当該評価項目の配点の割合。
 注4) 実績重視型は、「簡易な施工計画」に配点がされていない工事を含む。

2-3. 技術評価の実施状況

- ・コンクリート構造物工事は、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)のいずれも、多くの地方整備局で「性能・機能」の配点率が高くなっている。一方、「特別な安全対策」、「施工計画」の配点率が高い地方整備局もある。

〔標準型(Ⅰ型)〕

〔標準型(Ⅱ型)〕

コンクリート構造物工事

平成22年度

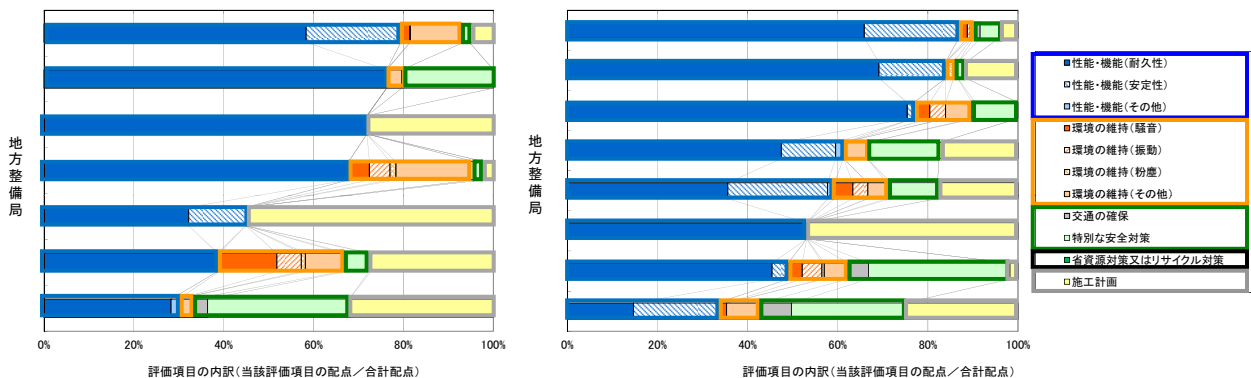


図10 地方整備局別 技術提案課題の配点率(標準型)

- 注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 各評価項目の詳細配点が確認でき、CORINSデータと照合できた工事を対象。当該工事が無い地方整備局もある。
 注3) 配点率は、合計に対する当該評価項目の配点の割合。
 注4) WTO対象工事を除く。

2-3. 技術評価の実施状況

・土工事は、標準型(Ⅰ型)、標準型(Ⅱ型)のいずれも、多くの地方整備局で「性能・機能」の配点率が高くなっている。一方、「特別な安全対策」、「施工計画」の配点率が高い地方整備局もある。

〔標準型(Ⅰ型)〕

〔標準型(Ⅱ型)〕

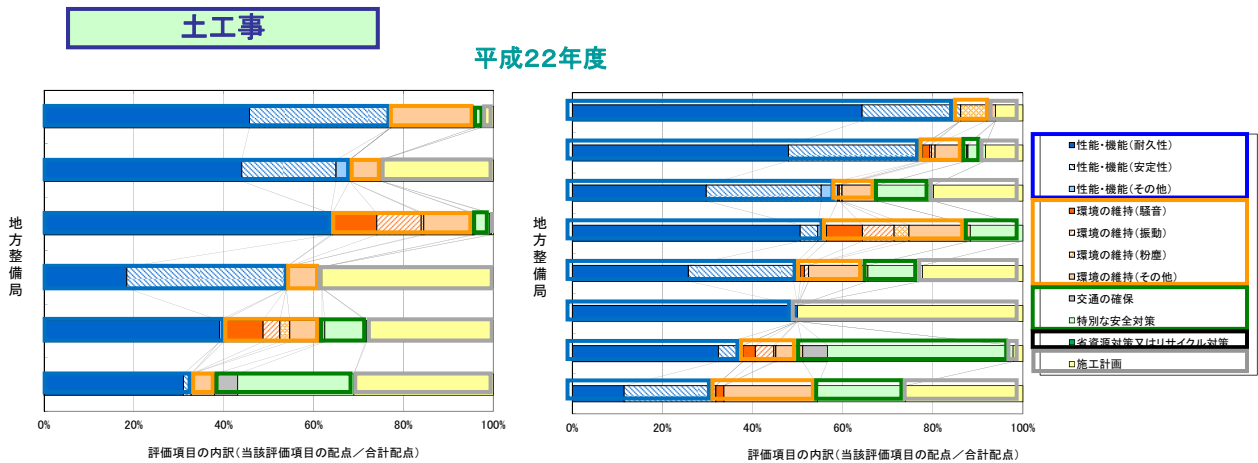


図11 地方整備局別 技術提案課題の配点率(標準型)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 各評価項目の詳細配点が確認でき、CORINSデータと照合できた工事を対象。当該工事が無い地方整備局もある。
 注3) 配点率は、合計に対する当該評価項目の配点の割合。
 注4) WTO対象工事を除く。注3) WTO対象工事を除く。

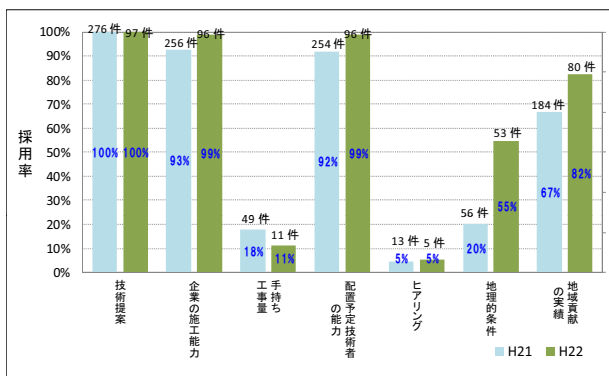
P.13

2-4. 標準型における評価項目

・平成22年度において、標準型(Ⅰ型)の評価項目のうち、「技術提案」に次いで採用率が高いのは「企業の施工能力」、「配置予定技術者の能力」であり前年度と同様である。一方で「地理的条件」、「地域貢献」の採用率は増加している。

・平成22年度において、標準型(Ⅱ型)の評価項目のうち、「技術提案」、「企業の施工能力」に次いで採用率が高いのは「配置予定技術者の能力」、「地域貢献の実績」であり前年度と同様である。一方で「地理的条件」の採用率は増加している。

〔標準型(Ⅰ型)〕



〔標準型(Ⅱ型)〕

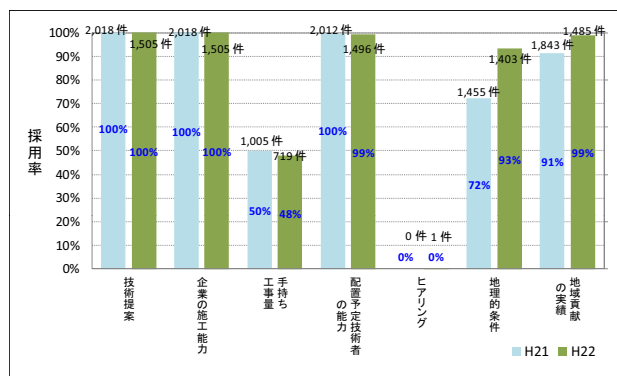


図12 各評価項目の採用率(平成21年度、平成22年度)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 採用率は、総合評価方式の全適用工事に対する当該評価項目の採用工事の割合。
 注3) 主要4工種(一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
 注4) WTO対象工事を除く。

P.14

2-4. 標準型における評価項目

- 平成22年度において、標準型(Ⅰ型)の評価項目のうち、落札者の得点率の平均値が高いのは「ヒアリング」、「地理的条件」である。ただし、ヒアリング実施件数は5件のみとなっている。また、落札者と非落札者で得点率に特に差がついているのは「技術提案」である。
- 平成22年度において、標準型(Ⅱ型)の評価項目のうち、落札者の得点率の平均値が高いのは「ヒアリング」、「地理的条件」であり、落札者と非落札者で得点率に特に差がついているのは「技術提案」、「ヒアリング」、「地理的条件」である。ただし、ヒアリング実施件数は1件のみとなっている。

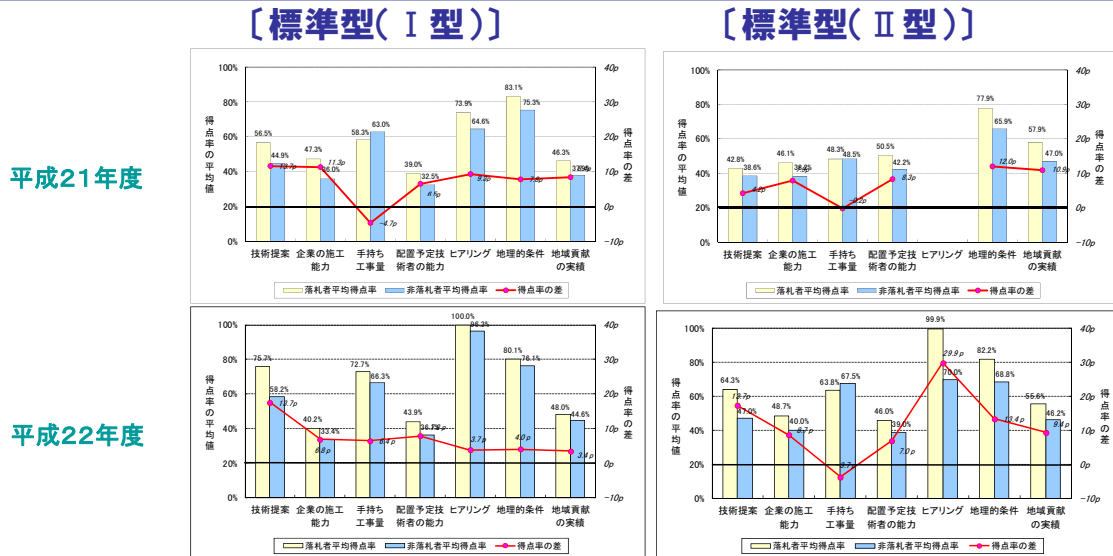


図13 各評価項目の落札者と非落札者の得点率と得点率の差(平成21年度、平成22年度)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 得点率は、各評価項目の配点に対する得点の割合。
 注3) 得点率の差は、落札者と非落札者の平均得点率の差。

注4) 主要4工種(一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
 注5) WTO対象工事、及び予定価格内1者の工事を除く。
 注6) 予定価格超過者、辞退者及び不参加者を除く。

2-4. 標準型における評価項目

- 平成22年度において、標準型(Ⅰ型)の評価項目(技術提案)のうち、採用率が高いのは「コンクリートの耐久性向上」であり、「コンクリートの耐久性向上」、「施工計画(施工計画全般)」の採用率は増加している。
- 平成22年度において、標準型(Ⅱ型)の評価項目(技術提案)のうち、採用率が比較的高いのは「コンクリートの耐久性向上」であり、「安全施工対策」の採用率は減少している。

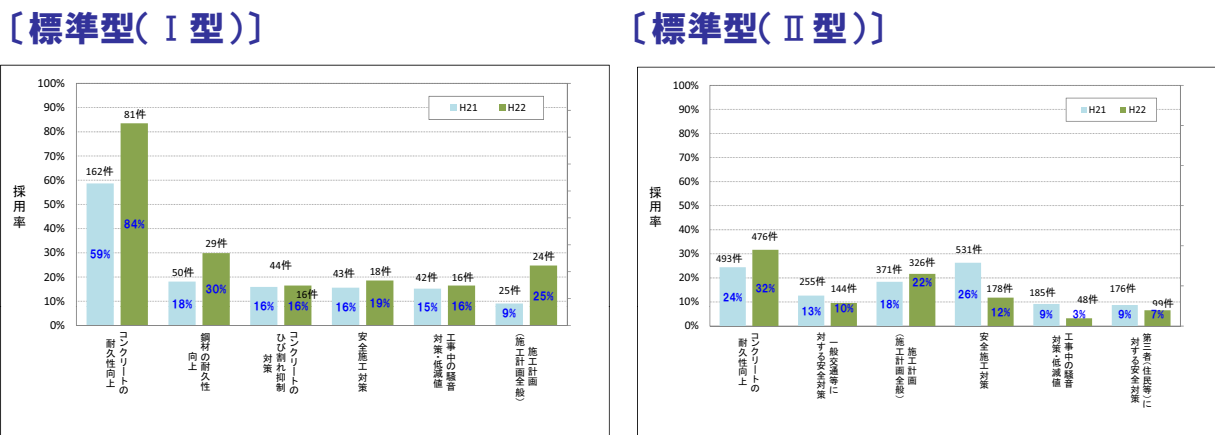


図14 技術提案に係る具体的な課題の設定状況(平成21年度、平成22年度)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 採用率は、総合評価方式の全適用工事に対する当該評価項目分類を採用している工事の割合。
 注3) 主要4工種(一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
 注4) WTO対象工事を除く。

2-4. 標準型における評価項目

- 平成22年度において、標準型(Ⅰ型)の評価項目(技術提案)のうち、落札者の得点率の平均値が高いのは「施工計画(施工計画全般)」、「安全施工対策」、「鋼材の耐久性向上」である。また、「工事中的騒音対策・低減値」以外の項目では、落札者と非落札者で得点率に差がついている。
- 平成22年度において、標準型(Ⅱ型)の評価項目(技術提案)のうち落札者の得点率の平均値が高いのは「工事中的騒音対策・低減値」である。また、「コンクリートの耐久性向上」など全ての項目で落札者と非落札者で得点率に差がついている。

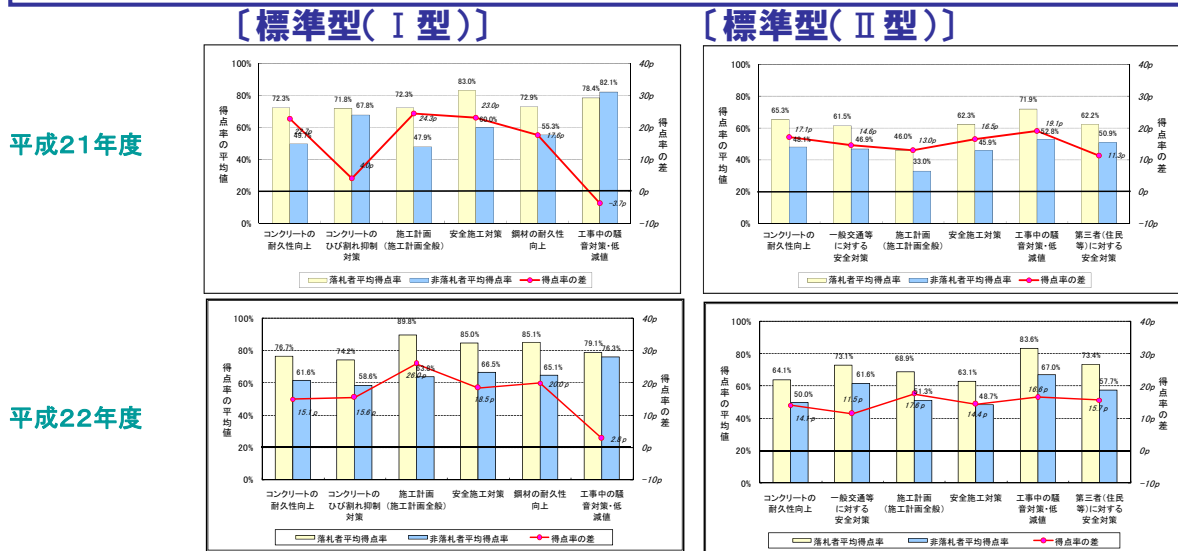


図15 各評価項目の落札者と非落札者の得点率と得点率の差(平成21年度、平成22年度)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 得点率は、各評価項目の配点に対する得点の割合。
 注3) 得点率の差は、落札者と非落札者の平均得点率の差。

注4) 主要4工種(一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
 注5) WTO対象工事、及び予定価格内者の工事を除く。
 注6) 予定価格超過者、辞退者及び不参加者を除く。

P.17

2-5. 簡易型における評価項目

- 平成22年度において、簡易型(実績重視型を除く)の評価項目のうち、採用率が高いのは「企業の施工能力」、「配置予定技術者の能力」、「地域貢献の実績」であり前年度と同様である。一方で「手持ち工事量」、「地理的条件」の採用率は増加している。
- 平成22年度において、実績重視型の評価項目のうち、採用率が高いのは「企業の施工能力」、「配置予定技術者の能力」、「地域貢献の実績」であり前年度と同様である。一方で「地理的条件」の採用率は増加し、「手持ち工事量」の採用率は減少している。

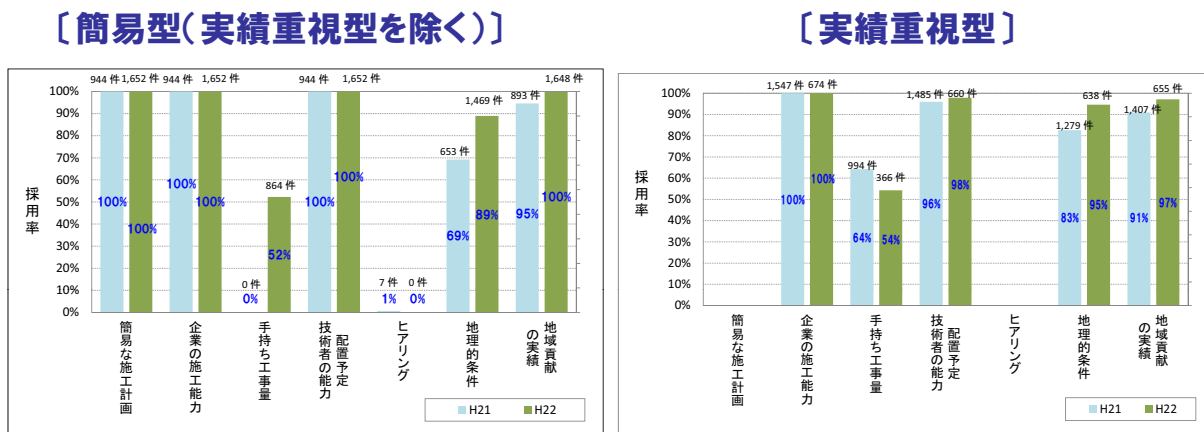


図16 各評価項目の採用率(平成21年度、平成22年度)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 採用率は、総合評価方式の全適用工事に対する当該評価項目の採用工事の割合。
 注3) 主要4工種(一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
 注4) 実績重視型は、「簡易な施工計画」に配点がされていない工事を含む。

P.18

2-5. 簡易型における評価項目

- ・平成22年度において、簡易型(実績重視型を除く)の評価項目のうち、落札者の得点率の平均値が高いのは「地理的条件」である。
- ・平成22年度において、実績重視型の評価項目のうち、落札者の得点率の平均値が高いのは「地理的条件」である。

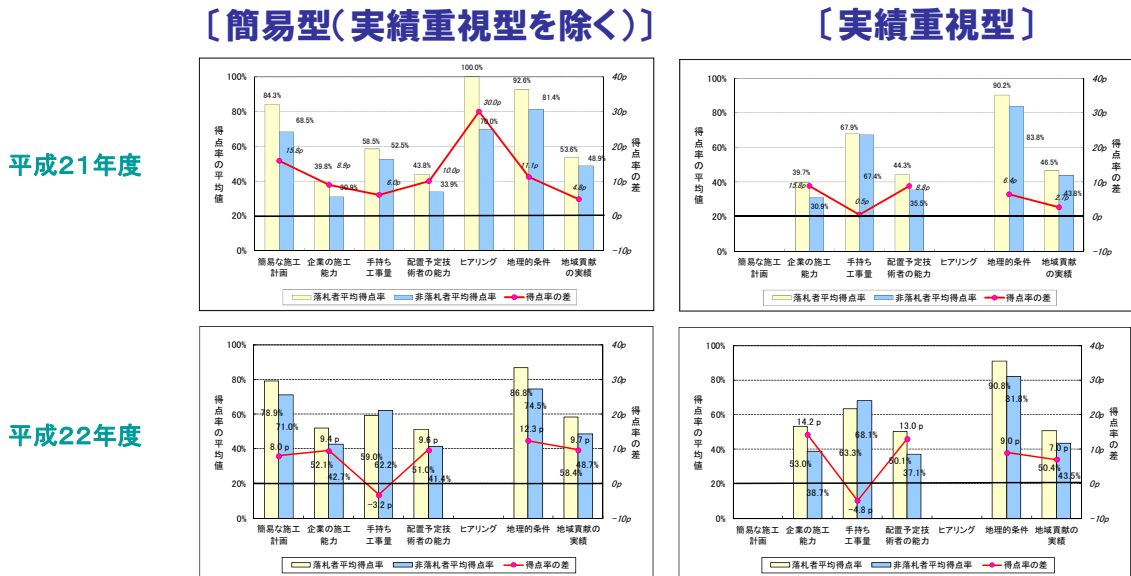


図17 各評価項目の落札者と非落札者の得点率と得点率の差(平成21年度、平成22年度)

- 注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
- 注2) 得点率は、各評価項目の配点に対する得点の割合。
- 注3) 得点率の差は、落札者と非落札者の平均得点率の差。
- 注4) 主要4工種(一般土木、As舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
- 注5) 予定価格内1者の工事を除く。
- 注6) 予定価格超過者、辞退者及び不参加者を除く。
- 注7) 実績重視型は、「簡易な施工計画」に配点がされていない工事を含む。

2-6. 落札者の状況

- ・平成22年度において、最高得点者(最低価格者以外)が落札した割合は、WTO(標準型)61.1%、標準型(I型)46.4%、標準型(II型)30.1%、簡易型(実績重視型を除く)25.9%(実績重視型27.7%)となっており、技術評価を重視する度合いが大きいほど高い割合となっている。

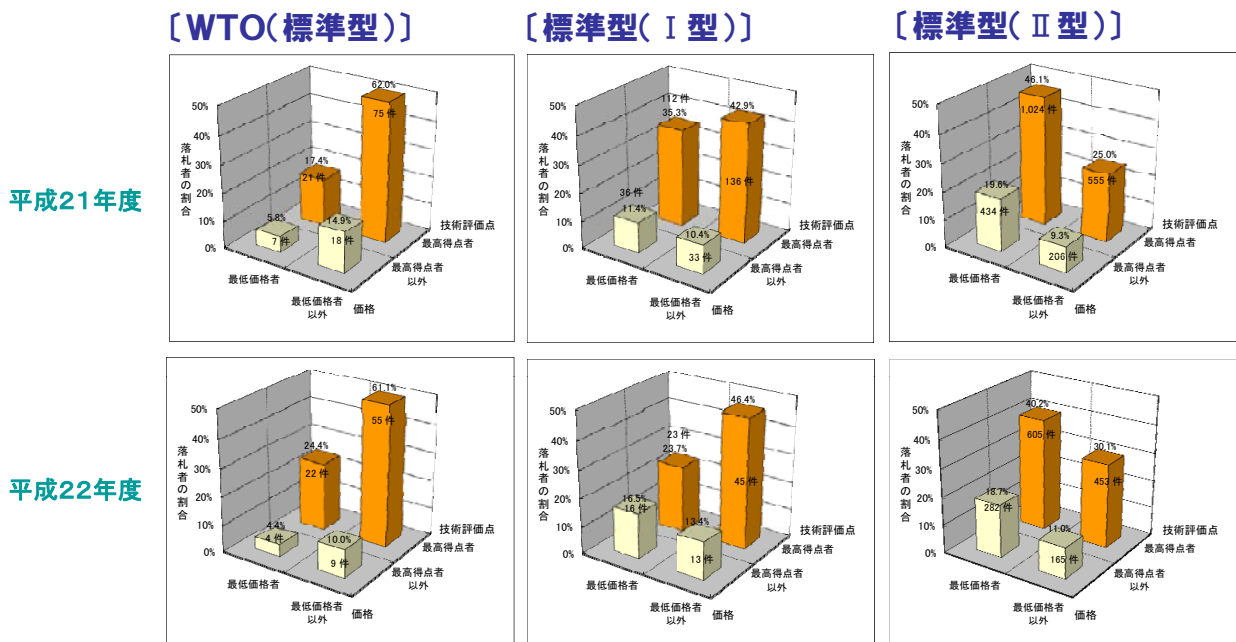


図18 落札者の内訳

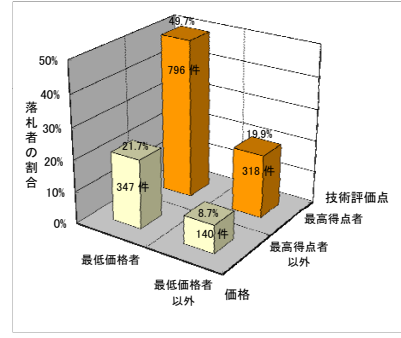
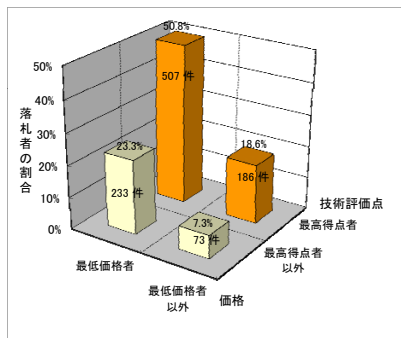
- 注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
- 注2) 主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
- 注3) 予定価格超過者、辞退者及び不参加者を除く。

2-6. 落札者の状況

〔簡易型(実績重視型除く)〕

〔実績重視型〕

平成21年度



平成22年度

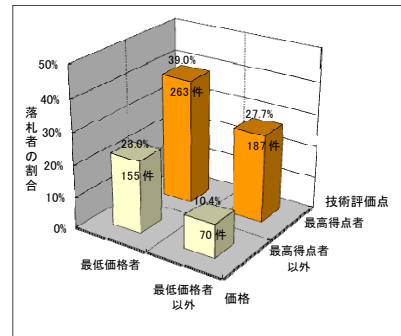
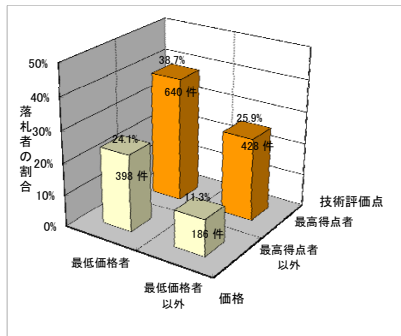


図19 落札者の内訳

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
注2) 主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

注3) 予定価格超過者、辞退者及び不参加者を除く。
注4) 実績重視型は、「簡易な施工計画」に記点がされていない工事を含む。

P.21

2-6. 落札者の状況

・満点(標準点+加算点満点+施工体制点)における得点率は、WTO(標準型)、標準型(I型)、標準型(II型)で90%以上となる件数が過半数を超えており、それぞれ90.8%、66.4%、56.7%を占めている。

〔WTO(標準型)〕

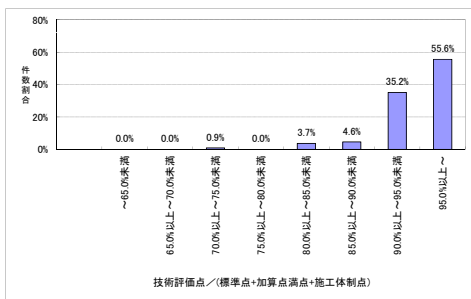


図20 技術評価点の分布(平成22年度)

〔標準型(I型)〕

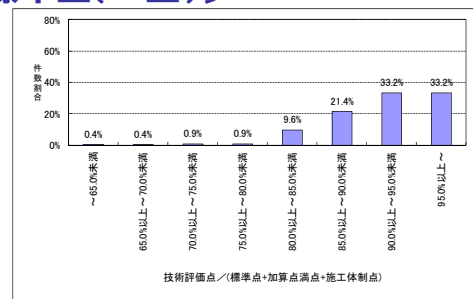


図21 技術評価点の分布(平成22年度)

〔標準型(II型)〕

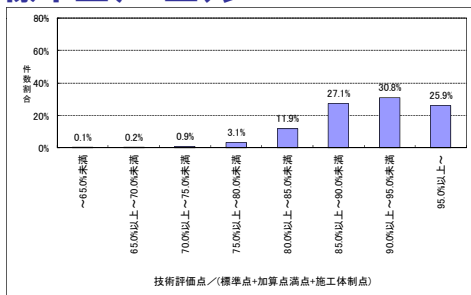


図22 技術評価点の分布(平成22年度)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)

注2) 主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。

P.22

2-6. 落札者の状況

・満点(標準点+加算点満点+施工体制点)における得点率は、簡易型(実績重視型を除く)、実績重視型ともに90%以上となる件数が過半数を超えており、それぞれ65.6%、92.0%を占めている。

〔簡易型(実績重視型を除く)〕

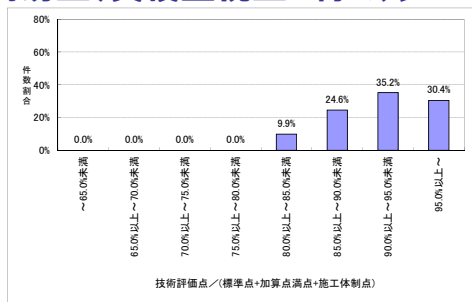


図23 技術評価点の分布(平成22年度)

〔実績重視型〕

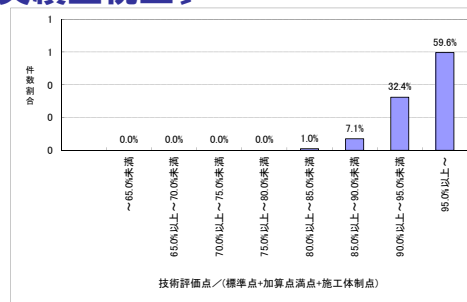


図24 技術評価点の分布(平成22年度)

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)
 注2) 主要4工種(一般土木、AS舗装、PC、鋼橋上部工)に該当する工事を対象。
 注3) 実績重視型は、「簡易な施工計画」に配点がされていない工事を含む。

2-7. 施工体制確認型の実施状況

・施工体制確認型を導入した場合の平均工事成績評定点は75.8点で、導入しない場合と比較して1.6点高い。
 ・工種別に、施工体制確認型を導入した場合と導入しない場合における工事成績評定点を比較すると、いずれの工種においても、導入した場合の方が高い値を示しており、特に、一般土木(4.1点差)、AS舗装(2.1点差)、電気設備(2.5点差)の差が大きい。
 ・落札率も、通信設備を除く工種において、導入した場合の方が高い値を示しており、特に、電気設備(15.0ポイント)、建築(7.6ポイント)、造園(6.0ポイント)、塗装(4.1ポイント)の差が大きい。

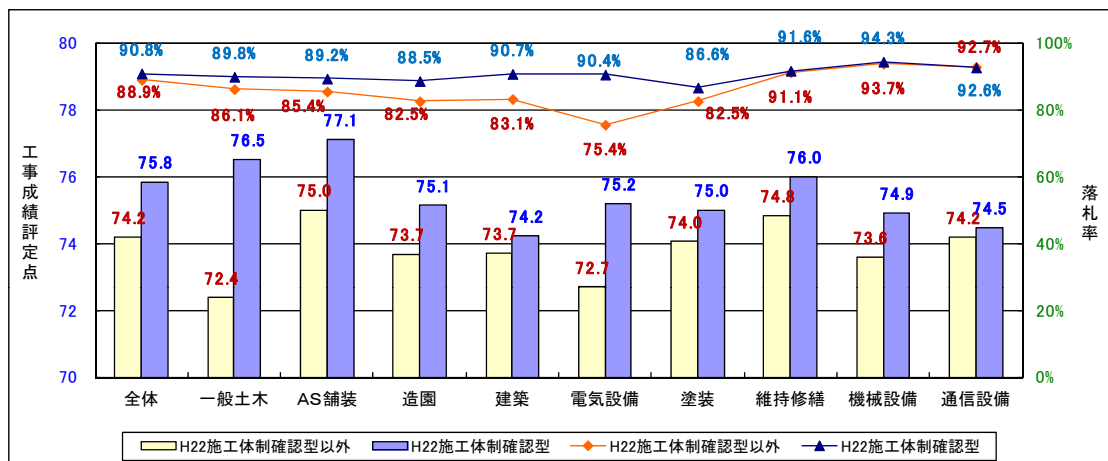


図25 工種別 工事成績評定点と落札率の状況(平成22年度)

		全体	一般土木	AS舗装	造園	建築	電気設備	塗装	維持修繕	機械設備	通信設備
件数	H22施工体制確認型以外	671件	65件	12件	56件	30件	16件	22件	344件	43件	62件
	H22施工体制確認型	2,955件	819件	128件	86件	136件	71件	82件	1,052件	168件	225件
65点未満 工事件数	H22施工体制確認型以外	4件	2件	0件	1件	0件	0件	0件	1件	0件	0件
	H22施工体制確認型	9件	1件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件

注1) 8地方整備局の工事を対象。(港湾・空港関係工事を除く)

注2) 工種別は、平成21年度で100件以上の工種を対象。平成22年度で100件未満の場合もある。